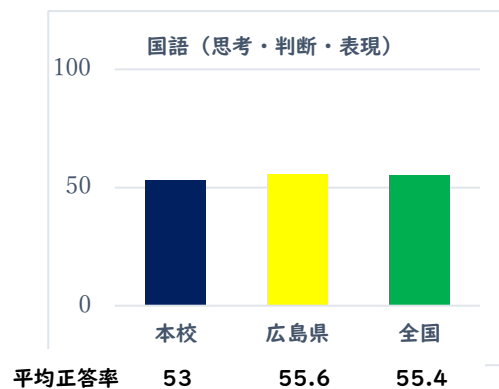
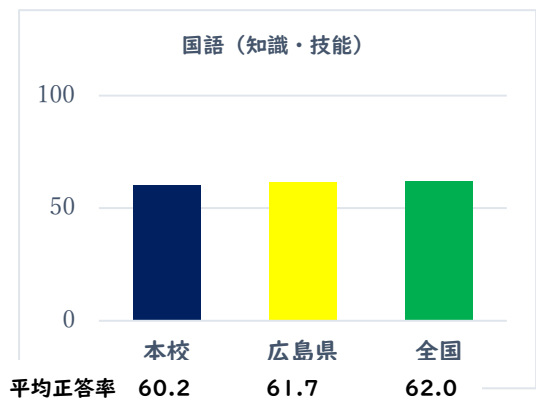


全国学力学習状況調査 ―指導方法等の改善計画について

【国語科】

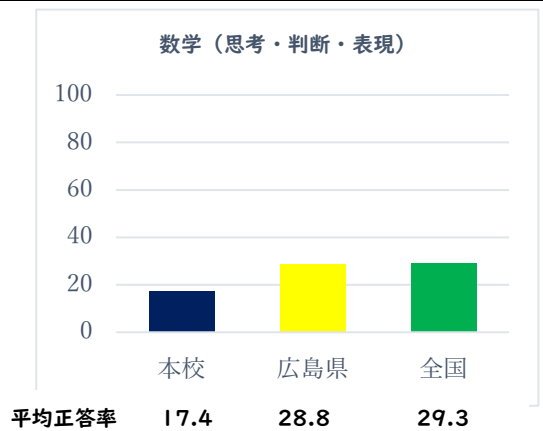
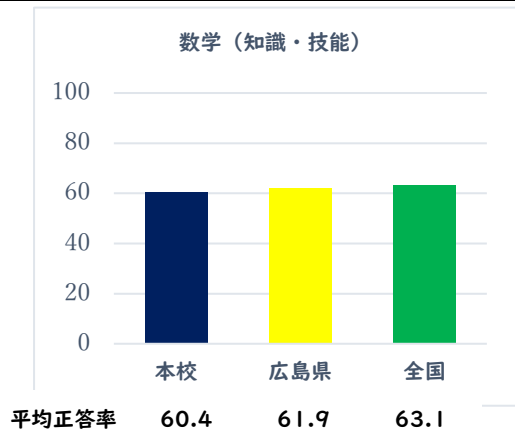
平均正答率 56%（全国 58.1%）



重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法
【課題 1】知識・技能『短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する』の正答率が 38.7%（全国比－16.2%） 【課題 2】思考・判断・表現『本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する』の正答率が 32.3%（全国比－10.3%）	【改善 1】知識・技能に関する問題については、未定着であったり間違えて覚えてしまっているという状況が確認できた。適宜反復して知識の定着を図りたい。 【改善 2】回答の傾向を分析すると、条件の一つは満たしているが、もう一つは満たせていないということがわかった。問題文を最後までよく読み、何を問われていて何について答えなければいけないかという出題の意図を理解する対策を講じていきたい。

【数学科】

平均正答率 47%（全国 52.5%）



重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法
【課題 1】知識・技能『等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる』の正答率が 41.9%（全国比－	【改善 1】方程式の解き方を反復練習で確実にし、文字に変化したときにも同じように計算していくことを確

10.6%) 【課題 2】知識・技能『連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる』の正答率が12.9% (全国比-21.9%)	認したい。 【改善 2】偶数、奇数、整数、自然数の言葉の意味を確認する。文字に数字を代入させ、いつでも成り立つものかを考えさせたい。文字を扱った問題のときには具体的なものから抽象的なものにすることを徹底させていきたい。
---	--

今年度は「未知の状況に対応できる生徒の育成」を研究主題とし、教員は「聴き合い」や「自由進度学習」等、生徒の学びがより効果的なものとなるように授業改善に取り組むとともに、生徒は日頃の授業で基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、教科の見方や考え方を働かせて解決する活用問題に対して深く思考している。

しかし、今回の結果から思考力、判断力、表現力の育成はまだ不十分であることが分かった。今年度の研究主題である「未知の状況に対応できる生徒の育成」はまさに思考力、判断力、表現力の育成に向けた取組が中心となるため、2学期以降はもっと活用問題にチャレンジさせていきたい。

生徒質問紙調査では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して肯定的回答が90.4% (全国比 +4.3%) だったり、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」に対しての肯定的回答が96.8% (全国比 +4.5%) だったりするなど、日頃取り組んでいる「聴き合い学習」の成果が表れているように感じる。一方で、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」に対し肯定的回答が74.2% (全国比 -3.7%)、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができていますか」に対しては肯定的回答が74.2% (全国比 -4.8%) など、授業で習得した知識・技能を他のことに応用したり、教科の内容を活用したりすることには課題がある。これらのことを受けて、今後の授業では「振り返りの充実（その授業で学んだことを実生活にどのように生かしていくか、実生活と結びつけて更に疑問に思ったこと等を書く）」や「導入の工夫（実生活の結び付けた課題を提示する等）」を通して課題を解決していきたい。